

ABH8を分子標的とし架橋型人工核酸を用いた革新的膀胱癌治療薬の開発

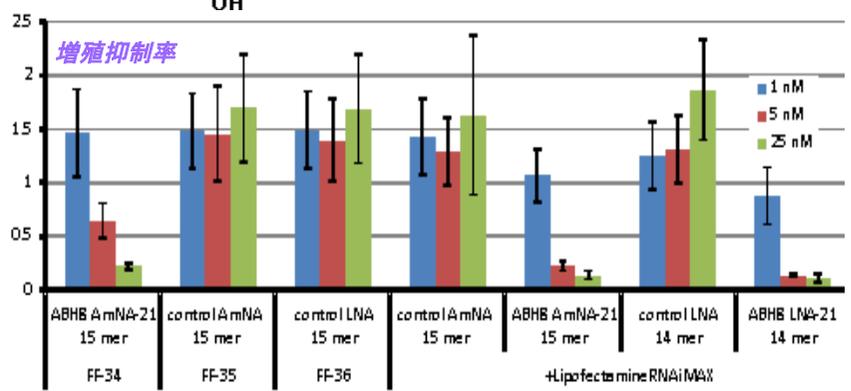
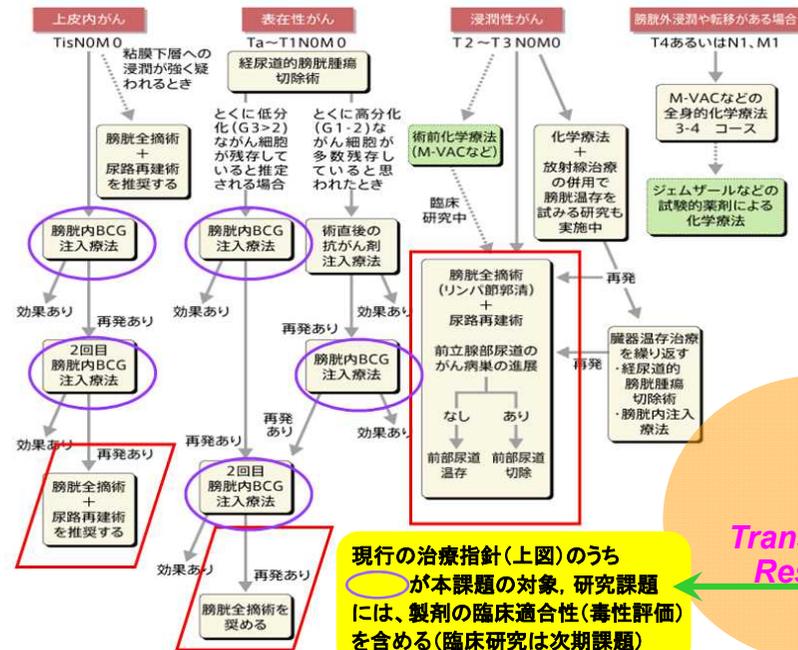


- 期待される成果：膀胱癌関連遺伝子ABH8を分子標的とした革新的核酸医薬品(AmNA-アンチセンス核酸内包リポソーム製剤)の開発
- 想定される実用化の時期：2020年頃

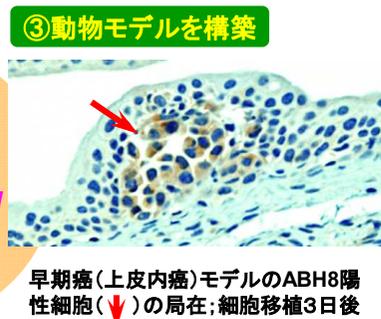
- プロジェクトリーダー
富士フイルム株式会社 柿沼 千早
- 実施機関
富士フイルム株式会社・大阪大学
- 実施機関
平成26年12月～平成28年11月

- シーズの内容
 - ・最適アンチセンス配列の選定/内包リポソーム製剤の創出
 - ・早期膀胱癌モデル(同所移植)の構築とバリデーション(新規)
 - ・膀胱内投与方法・最適レジメンの検討後、薬効の提示
 - ・ヒト適合性評価(毒性)の検討・薬剤としての開発可能性の担保

本課題のコンセプト 現在、上皮内・表再性膀胱癌(膀胱癌で最多)治療には「BCG注入療法」が用いられるが再発率が高く(70%)膀胱摘出に至る患者が多い。本課題では、BCGに置き換わる治療法を確立する。本課題研究期間では、上皮内・表在性をターゲットとし、次期には浸潤・転移癌克服を視野に入れる。



ABH8発現ライン化細胞で評価



②リポソーム化による活性維持を確認

④モデル③に製剤②を投与する薬効試験を実施;レジメンを確定

